

42. カリブ海

台風の話ばかりでは飽きてしまいますから一寸中休みして、今回はコバルトブルーの海、常夏の国、夢のようなカリブ海の島々をクルージングしてみましょ。事実フロリダ半島のマイアミからは連日豪華客船がカリブ海のクルージングに出航しており、アメリカ人にとって一生に一度は行ってみたい夢のバカンスなのです。

このクルージングの魅力は目の前がバハマ諸島で航行が半日くらいで最初の観光地に着いてしまうのですから、連日異なった島々を巡ることができ、豪華客船での船旅が最短コースで僅か一週間位で満喫できるのですから観光旅行として一番人気です。

ところがこのカリブの島々は観光以外の産業は少なく、珊瑚礁の島々ですから地下資源は皆無、地質は悪くサトウキビ畑だけが広がる厳しい現実と政情不安は年中行事のように暴動が繰り返され、住民は最低の生活を強いられております。

このカリブ海の島々は大アンチール諸島と小アンチール諸島に大別され、キューバ島、イスパニョーラ島、プエルトリコ島の三島が大アンチール諸島、プエルトリコ島の東端から時計回りに半円を描くように小さな島の列島が小アンチール諸島です。

それぞれの島は独立国や宗主国が異なる島々でそれぞれ独自の歴史に翻弄され、現在に至るも全く異なった様相を呈しており非常に興味のある島々です。

そのうち大アンチール諸島の雄、野球やバレーボールでお馴染みのキューバから始めましょ。このキューバの建国は世界の歴史に翻弄され苦難の末、やっと掴んだ独立ですが、その後もスワ!! 第三次世界大戦かと世界を緊張させたあのキューバ危機まであった経済封鎖、侵攻作戦と一時は世界の眼がこのカリブ海に釘付けになったのです。

その前に私達年代の者がキューバを意識したのは戦後まもなくのことで、飢えに苦しむ日本国民に進駐軍よりの暖かい支援と称して米麦の主食の代わりに大量のキューバ糖が配給になったのです。その量たるやバケツを持って行ってスコップで入れるほどの量で、小学生だった私がやっと持ち帰りました。砂糖といっても精製前の赤い粒でその内何割かはゴミという代物、ネズミのフンまで混じっていました。それでも水に入れてゴミを浮かして取り除き、其の水を煮ずめて重曹を入れると見事に膨らんでカルメができあがり、しかし主食の代わりにカルメを食べてもスイーツの代用にはなっても食事の代用にはなりません。キューバに赴任してから、知り合った土地の古老にそのキューバ糖の話をしたら、第二次大戦中は砂糖の輸出が出来なくて山積みされたまま何年も放置されていたのを戦後アメリカの輸送船がやって来て全部持って行ってしまったけど、日本に持っていったとは知らなかったと驚いており、お前あれを食べたのかと可笑しそうに笑っておりました。

常夏の島、夢の楽園と讃えられているキューバは宣伝文句とは裏腹に目の前にあるアメリカの経済



①

封鎖によって経済状態は極度に困難な状態に陥っていた時代に私がほんの一時期の7ヶ月ほどキューバ国内で働いていたことがあります。

ボスがユダヤネットワークで情報を掴んできて、私に半年位の予定でキューバへ行ってこいと命じたのです。ボスが名指しで命ずるときはロクナ仕事じゃないのは本能的にわかります。しかしこの時は行く先がキューバですから米国のパスポートでは入国できないので私以外は該当者無し、「オマエ一人でやれ」ボスの命令は絶対です。

メキシコシティの空港から中型のプロペラ機に乗ってハバナへやって来て現地の担当者の要望を伺うと、石油精製所のタンク群からキューバ国内の各地にあるタンクへ石油製品の配送を小型ケミカルタンカーでやりたいが、該当する船を探してきて欲しいとのこと、そこで国内各地にあるタンクと寄港予定港の水深、パイプの種類、ジョイントバルブの径や種類、積載予定ケミカル等を1ヶ月にわたって調査し、そのデータに合う船を探しに日本へ赴き、瀬戸内にあった小さな海運会社でやっと適合した中古タンカーに巡り会い、買い取り交渉をしてなんとか買収、輸出許可を取るため関係官庁へ提出する書類が膨大でしたが、やっとクリアしてから国籍変更。マンニング会社に依頼して太平洋を横断してキューバまで航行するための最小限（7名）のクルーを派遣してもらい私の指揮で出航。ハバナで現地乗組員と交替、キューバ国内運送を始めたのですが、化学の知識とパイプ、バルブの正確な操作が絶対必要な危険な仕事です。一つ間違えば爆発する代物の取り扱うのですから其の教育と訓練は大変なのです。この時はケミカルタンカーに長年乗船していた元ボースンを指導員として日本から同乗して連れてきており、最初のうちは私と二人だけでバルブ操作を行いました。なにしろ全く知識のない現地の乗組員の訓練をやり、習熟させる義務があったのです。

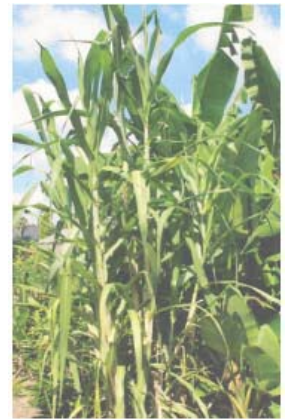
キューバの言語はスペイン語ですから化学の知識など皆無の私が怪しげなスペイン語でやらなければならず、しかも乗組員も化学の知識無し、但し化学記号は世界共通でしたから幾分助かりました。試行錯誤の連続でしたがなんとか運航しながらの訓練を続けておりました。ところが予想外のことで悩まされだしたのです。それは極端な食糧の不足で、社会主義を標榜する国ですから食糧は配給制で主食であるパンは配給されるのですが、副食となるものが極端に不足しているのです。特に野菜類が全くありません。集団農場（コルホーズ）を実験的に始めた頃で、全て砂糖黍を植え付けてしまい、野菜類は各家庭の庭に植え付ける程度で、自給自足で賄えというのが政策だったのです。ですから毎食時パンとコーヒー、砂糖だけは豊富にあり、“人はパンのみでは生きられず” “バターがなけりゃ” はジョークですが、本当にパンのみですから空腹がしのげる程度の飢餓状態でした。しかし‘タリヌタリヌハ工夫ガタリヌ’（戦時中の標語）そこで創意工夫、鰯に似た小魚が入れ喰いで釣れ、それをタタキ、ツミレ、開きの干物、カラ揚げ、タタキとバナナを練り合わせて油で揚げた不思議なハンバーグと創意工夫は拮抗しました。乗組員は全員地元キューバの人達ですから各人の才覚で調達していたみたいです。しかし私達二人はその様な才覚は無く、パンと小魚で我慢しておりましたが、フロリダ半島やキーウエストが直ぐ近くですからラジオはガンガン聴取できますし、時には鮮明にテレビが受信できます。そうするとCMで米国の美味しそうな食品が次々と現れては消えていき、ラジオは○

×スーパーが食料品のバーゲンセールを甘い声で囁きます。ただ見るだけ、聴くだけ、パブロフの動物実験みたいで、ツバを呑み込む残酷さにこのうえない苦痛を感じ、無理にきてもらったボースンには満足に食事もできない待遇を謝罪しました。そうしたらボースン曰く、かつてインパール作戦に従軍した元陸軍下士官の勇士だったとのこと、柳田兵団の歩兵部隊に属しフーコン溪谷戦では雨季の密林の中を彷徨した時に比べたら今はパンがあるだけでも天国と満足そう、私も極貧育ち故、パンがあるだけでも幸せと思いなおすと気も楽になり、その後はインパール作戦の話ばかりをしていました。そしてこの作戦を立案し、無理矢理に強行しながら、失敗と判ると前線部隊に其の責任を押しつけ逃げ帰ったインパール作戦 軍司令官の名前を連呼「××のバカヤロー」と二人で暗闇のカリブ海へ向かって咆哮し僅かに溜飲を下げました。

この時の航海はキューバ国内だけの輸送ですから、夕方出港すると翌早朝には次の寄港地に着いておりましたからキューバ国内の港の大半に寄港し、その社会主義下の生活を各地方毎に一寸ばかりですが見聞できたことは収穫でした。

若い男女の楽しみは夕暮れになると涼しくなりガールフレンドを前に横向きに乗せ自転車でのドライブ？。道路で踊りまくるライブ、なにしろガソリン不足で夜は自動車が殆ど走っておりません。市内のバス・タクシーの役割は乗合馬車でした。野球は盛んであちこちでナイトゲームをやっており観戦にいたり TV 中継をみておりました。なにしろ世界一の水準ですが社会主義ですからプロはありません。また、たまには日本映画が上映されており、勝新の座頭市が最高の人気で、なにしろ底抜けの陽気さには感心しました。

ある日のこと、砂糖黍畑の中の本道を運動の積もりでブラついていると、何故か懐かしそうな風情のバスが土煙を上げながらやってきました。近づくとなんと‘東急バス’で行き先は“等々力”と表示されており、もしかすると‘となりのトトロ’のネコバスのように海を越えて等々力へ行けるかも知れない、そうしたら終点で降りて田園都市線に乗り換え、暫く帰っていない



②

懐かしの我が家へ帰れる、と一瞬脳裏を駆け巡り、その次は猛烈な望郷の思いでした。この東急バス系は別の場所でも見掛けましたから、バスを廃車し、業者に引き渡したのを輸入したみたいで、アフリカでも‘西鉄バス’がそのままの姿で走っているのを見たことがあり、異国で頑張っているバスの勇姿は感動モノです。



③

五ヶ月後乗組員も満足に働けるようになり、ボースンは日本に帰り、私もそれから二ヶ月後全ての業務と引き渡しを完了、メキシコ経由で紐育へ帰ろうとしたのですが、メキシコシティのホリデーインに宿泊中、緊張が解けたせいか身体に変調があり、ホテル内の医師の診察を受けたところ、問診で何処から来たか？と訊かれたので、キューバで七ヶ月働いて帰るところだ告げたところ、ニヤリとしてベジタブルとフルーツをたらふく食べるとの診断、



④

そこで本社に電話したら休暇をやるからユックリしているとの伝言、ホテルの食事はサラダ類がバイキングなので、メインデッシュなしの野菜サラダとフルーツのバカ喰いで元気快復、本社に戻るとアフリカ行き航路、地獄の配乗令が待っておりました。

キューバの歴史を見てみましょう。Cuba のスペイン語の発音はクーバです。1492 年コロンブスの第一次航海は黄金の島「ジパング」を目指しながら、インディアス（バハマ諸島）に到達、その約二週間後の 10 月 27 日キューバ北岸に上陸、その後イスパニョーラに上陸しここに砦を築いて乗組員の一部を残し帰途につき、カリブ海全域をスペイン王の占有宣言をしております。

そして第二回目の航海でカナリア諸島から砂糖黍の苗をもってカリブにやって来ましたからコロンブスの先見の明は相当なもので、現在でもカリブの主産業は砂糖黍栽培です。

このカリブの島々は無人島であったのではなく、先住民であるタノイ族、シボネイ族が原始的ながら農耕に携わっていたのですが、1511 年 スペインのベラスケス率いる遠征隊が上陸し、植民地化が始まると原住民を虐殺、強制労働での虐待死、餓死、疫病等により全滅、その後は大勢のスペイン人が移住し、中・南米征服やインカ文明のお宝持ち出しの中継基地にしております。その後はアフリカから大量の奴隷を連れてきて、砂糖黍栽培の大規模経営をしております。更にキューバの重要性はお宝運送のガレオン船の中継基地であったことと、それを狙う海賊船からの護衛、征伐、海賊基地への攻撃、その根拠地として重要だったので、其の中心は天然の良港であるハバナ湾です。

近代にはいると隣国アメリカが力を付けてきて、南北戦争が終決した後、目の前の島でるキューバで凄まじい奴隷の酷使が行われていることをマスコミが連日これを報道し、特にイエローペーパーが無責任な世論喚起のヨタ記事を満載し、世論がキューバを助けようという声が高まった頃、1898 年 2 月 15 日ハバナ湾でアメリカ海軍の戦艦メーン号が原因不明の爆発、沈没で 260 名の乗組員が犠牲になり、特筆すべきは日本人 8 名が含まれております。これは海軍兵士として乗り組んでいた訳ではなく、その下請けのコック・ボーイとして働いており、出稼ぎとしてやっと仕事にありついた明治初期の貧しい日本人の生活を垣間見る思いです。

この事件を契機に米西戦争が始まります（西とはスペインを漢字で書くと西班牙です）この時‘坂の上の雲’の主演 秋山真之が観戦武官として米海軍の軍艦に乗り組みスペイン艦隊のサンチェゴ軍港封鎖の実戦を観て後の旅順軍港封鎖のヒントを得ています。この事実はNHKの大河ドラマ“坂の上の雲”でこの米西戦争での観戦をしているのを放映した辺りで突如打ち切られてしまいました。

戦争の結果はアメリカの一方的な勝利で、キューバの独立、スペインの植民地であったフィリッピン・グアム島・プエルトリコを獲得、アメリカは初めて植民地を持ったことになり、第二次大戦後フィリッピンは独立しましたが、グアムとプエルトリコは未だアメリカの海外領地となっております。第二次大戦後の 1959 年 カストロのキューバ革命が成功し、社会主義を標榜、世界でも数少ない社会主義国家の一つとして、かつ革命以来 60 年も首相としてカストロ人気は未だ根強いものがあります。もう一人忘れられない革命の英雄は‘エルネスト・チェ・ゲバラ’の存在です。カストロと共に闘いキューバ革命を成功させながら、次の革命を求めてボリビアへ赴き、闘い最中ボリビア山中で政府軍

に捕えられて殺害され 39 才の生涯を終えたゲバラに世界の若者の心を捉えて離さぬものがあります。我が国でも学生運動が華やかになりし頃、‘ゲバラ派’と名乗る学生運動の一派があり、その著書は未だ根強い人気があります。

革命後のカストロ政権が最初から対米関係の決裂を賭してまで本格的な社会経済革命を実行するの
か否なのか、米ソとも其の行方を見守っていた 1960 年初頭、当時のミコヤン副首相がワシントン訪問
の後、キューバを公式訪問し、年間 100 万トンの砂糖の買い付け、1 億ドルの長期開発援助の供与を
約束してモスクワに帰りました。其の事実を知ったアメリカ政府は、キューバは「赤化」したと断定、
早速カストロ政権打倒を画策、経済封鎖に着手し、それに対しカストロ政権は対米決裂を覚悟して、

急速に社会主義圏に接近し、特にソ連に
急接近、1962 年 10 月米軍の U2 偵察機が、
ソ連がキューバ国内に核弾頭付き中距離
ミサイル基地の建設を進めているのを空
中写真で撮影し、これをホワイトハウス
へ報告され、ときの大統領は若きジョ
ン・F・ケネディ、弟のロバート・ケネ
ディ司法長官、即座にソ連船のキューバ
港到着阻止、海上封鎖、米海軍艦船のカ
リブ海出動、軍用機 1190 機が即発進待



⑤

機、陸上部隊 18 万が軍港に集結という第三次世界大戦目前、写真撮影で明らかになったのが 10 月 16
日からケネディ大統領とフルシチョフ・ソ連首相のギリギリの交渉が
続き、ソ連が基地撤去に同意したのが 10 月 28 日、この 13 日間のホワ
イトハウスの内部における政権中枢の重苦しい雰囲気の詳細を描いた
のが映画、監督ロジャー・ドナルドソンの「13 DAYS」です。



⑥

世界中が固唾お呑んで見守って 13 日間でしたがなんとか回避でき
たことにホットしました。しかしこれで全てが解決したわけではなく、
アメリカによる経済封鎖は続きます。

世界は米ソの二極化対立がより激化し、特にアフリカ諸国が草刈り場となって代理戦争のような内
乱が各地で激発、キューバ正規軍がソ連側の傭兵としてアフリカの各地を転戦、その結果アフリカ諸
国の半数位が社会主義国になってしまったのです。そしてアフリカ近海の大西洋にはソ連艦隊が遊弋
しており、その頃私はアフリカ航路に就航しており何度か危険なめにあいましたからキューバとの縁
は深いようです。

その後もキューバの苦難は続き、特に後ろ盾であったソ連が崩壊し、経済的にも打撃を受けながら
カリブ海の強国に発展、挙国一致の不屈の精神は敬意を表します。

特に感激したのは、私が滞在していた頃はアフリカへ派遣された兵士がアフリカのジャングル地帯

で闘い、その時悪性の風土病に感染し、それを持ち帰ってしまったため国内で蔓延、その治療法も医師もいない状態でパニック状態でしたが、それが現在、世界水準を大きく抜き出した医療制度、医科大学の授業料は全て国庫負担、バイオ薬品は世界最高水準とカリブ海域の明星に成長しましたから喜ばしい限りです。

写真・絵

- ① アメリカのフロリダ半島の沖合に東西に細長い島がキューバで、フロリダやキーウエスト島のラジオ放送は AM・FM 受信でき、TV 放送も島の北側の一部では受信できます。
- ② 砂糖黍、全島が砂糖黍畑でコルホーズシステムですから他の作物を植生するには許可なければ植え付けできません。収穫作業は重労働です。
- ③ 東急バスがそのままの姿で頑張っておりました。路線バスですが砂糖黍畑の一本道を往復するだけですから行き先表示は必要なく、‘等々力’は単なるアクセサリです。
- ④ 昭和 63 年 4 月公開 宮崎駿監督作品‘となりのトトロ’最高の傑作です。その後の作品は受賞作品ですから最優秀作品なのかもしれませんが、私には一寸理解不可能でした。
- ⑤ 革命でカストロ政権が樹立し、ソ連に急接近して社会主義国家となり、全米が射程距離内にはいるミサイル発射基地を建設、これを探知したアメリカはこれを阻止するための軍事的圧力をかけ、ケネディ大統領とフルシチョフ書記長の息詰まる様な交渉の結果、回避できましたが、第三次世界大戦寸前でした。写真は当時の新聞からですが、上は米海軍哨戒機、中央がソ連貨物船、下が米海軍大型駆逐艦。
- ⑥ ミサイル基地建設中の現場を米海軍偵察機が撮影に成功し、直ちにホワイトハウスに報告され、撤去を決めるまでの 13 日間のアメリカ中枢の動きを克明に映像化した秀作、“1 3 D a y s” 2000 年 12 月公開、監督ロジャー・ドナルドソン、出演ケビン・コスナー、ブルース・グリーンウッド。